(2019.4改正)

＜別紙１＞

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社R-CORPORATION

②施設・事業所情報

名称：ぽらいと・えき		種別：福祉型障害児入所施設
代表者氏名：脇田　一隆		定員（利用人数）：50 名
所在地：〒245-0017 横浜市泉区下飯田町330		
TEL：045-804-6980		ホームページ：https://le-pli.jp/
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：2015年04月01日		
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人　ル・プリ		
職員数	常勤職員：31 名	非常勤職員：7 名
専門職員	（専門職の名称）：　名	看護師：2名
	保育士：8名	栄養士：2名
	公認心理士：2名	精神保健福祉士：3名
	社会福祉士：4名	介護福祉士：3名
施設・設備の概要	（居室数）	（設備等）
	居室：一人部屋74室	設備：食堂・居間12室
		設備：厨房
		設備：相談室3室
		設備：事務室
		設備：トイレ15室
		設備：浴室・脱衣室12室
		設備：医務室・静養室
		設備：多目的ホール
		設備：地域交流室
		設備：授乳室

③理念・基本方針

＜法人理念＞
1.ル・プリに集うすべての人のウェル・ビーイング（良い状態/良い状況であること）を目指します。
2.利用者に対し、その人格の尊厳を尊重し、その人ごとの様々なヒューマン・ニーズを充足させる支援を行います。
3.人々がそれぞれに持つ脆弱性（ヴァルネラビリティ）を包み込める共生社会の実現に、社会福祉の実践者として参画します。

＜ぽらいと・えきの由来＞
● ぽらいと・えきの「ぽらいと：Polite」には、英語で［思いやり］［丁寧な］という意味があります。ここに集まるすべての人、子どもと大人、子どもと子ども、大人と大人、これらの間で思いやりの関係を体現することは、友人関係、家族関係にも共通して

いくものと思います。
たくさんの人が集まり、通いあい、旅立ってゆく「えき」のような場所でありたいという願いが込められています。

＜基本方針＞
●ぽらいと・えきは、何かしらの障碍があり、家庭で養育できない環境ゆえに施設に辿りついた子どもたちが生活しています。子どもたちが辿りついた経緯をよく理解しておくことが大切です。子どもたちは、愛情を注がれ、人を信頼すること、愛情を享受することを、本来教わるであろう一番身近な親から暴力を受け、人への不信感と暴力に怯えてきた傷があることです。
●子ども達にとって、ぽらいと・えきの生活や活動の全てが「学び」の場です。職員は、子どもたちが生活する力を獲得する場、そして「安心」「信頼」を学ぶ場となるように、意識的で自覚的な言動が求められます。

④施設・事業所の特徴的な取組

＜施設・事業所の特徴的な取り組み＞
●全室個室。6名で1つのユニットを形成し家庭的な雰囲気の中で過ごしながら、卒園後のグループホーム等への小集団生活に向けての準備をすすめている。
●短期入所では地域で暮らす障碍児家族のレスパイトとしてのご利用等、地域生活を長く維持できるよう受け入れを行っている。
●一人ひとりの記念日を大切にし、誕生日のリクエストメニューや個別外出を実施している。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2022年09月10日（契約日）　～ 2023年04月06日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1回（2019年度）

⑥総評

【福祉型障碍児入所施設　ぽらいと・えきの概要】
●ぽらいと・えきは、社会福祉法人ル・プリ（以下、法人という）の経営です。ル・プリはフランス語で襞(ひだ)を意味する言葉で英語のプリーツに当たります。法人は平成29年に、3法人(社会福祉法人くるみ会、試行会、杜の会)が合併して新たな組織として創設され、障害分野では市内有数の大きな社会福祉法人となりました。組織の再構築の必要性から、遊休施設の有効活用等合併でのメリット面の追求に向かう方向性を持ち、6年以上経過をした令和4年度、事業方針が策定され、法人理念も新たに決定しました。法人理念の下、日々の活動に見出していくべきことをポリシーとして宣言し、共有すべきものとして確立しています。法人組織として、理事会の下に①障碍者福祉部門、②児童福祉部門、③高齢者福祉部門の３部門を置き、本部所轄会議として①経営会議幹事会、②経営会議、③部門会議、④エリア会議が設定され、マトリックス（多元的）の組織で期待新たに「社会福祉法人ル・プリ」が始動します。

●障碍者福祉部門のぽらいと・えきは、横浜市立なしの木学園の民営化により平成27年4月1日に、「ぽらいと・えき」として誕生した福祉型障害児入所施設です。様々な理由・背景により、家族等と一緒に暮らす権利が侵害された状況の知的障碍のある高校生までの子どもたちに施設での安心・安全を保障し、質の高い支援を目指して取り組んでいます。児童相談所からの情報提供・協力体制が不可欠であるため、常に情報の共有に努めています。そのためには信頼関係の構築、教育機関(養護学校等)との連携・協力が必須と

なり、必要な情報共有が日頃からできており、保護者等との関係では日常的な様子等を可能な限り伝えて共有を図り、関係が途絶えないことを大切にしています。この周囲との関係維持こそが障碍児支援の基本であると考え、支援に当たっています。

◇特長や今後期待される点
１．【事業所組織の明確化】
ぽらいと・えきの組織は体制が確立されており、組織化がさらに進んでいます。施設長、副施設長以下、施設部門、児童支援部門、成人支援部門に分け、責任体制を明確にして業務の効率化にもつなげています。支援員も各部門に配置され、今後、益々体系的に取り組みが進んでいくものと期待できます。

２．【地域との連携】
地域との交流の面では、周辺は大きな畑や梨畑等が中心の地域であり、自治会等との連携は難しい面がありますが、地域との関わりの考え方を行動指針で示し、隣接する障害者の入所及びデイサービスの施設(よこはまリバーサイド泉)と秋祭りを一緒に行い、近所の方も参加する等、子どもたち同士でも交流を図っています。また、町内会の祭りでは成人部門が手伝いに参加し、地域の老人会や地域の方に施設の多目的ホールや地域交流室の貸し出しを行い、交流する機会を得ています。また、施設は福祉避難所として指定されているため、泉区の避難所連絡会に参加し、連携を図っています。

３．【地域での思い出作り】
現状、地域との交流の幅が限られていますが、隣接の「よこはまリバーサイド泉」との交流により子どもたちの思い出も１つ１つ増えていることと思います。さらに、少し足を延ばして地域の買い物ツアーや、地域のための草むしり、公園の清掃等、地域交流を様々な学びの機会につなげ、子どもたちの「居場所」として、子どもが愛着を持てる「地域」として、「子どもたちの地域づくり」への取り組みの一考を期待します。「何もない」から、「何かを残していく」へ発想を転換し、今後、周辺の開発が進んでも埋もれることなく、ぽらいと・えきの存在感、特徴のある施設作りが成されていけば、子どもたちの楽しみにもつながっていくと考えます。また、施設の立地は、下飯田駅(横浜市営地下鉄)、ゆめが丘駅(相鉄線)は湘南台駅から1つ目の駅であることから将来的に発展が見込まれ、事前に隣接の施設と協力し合って行事、祭り等を周辺に周知し、定着を図る取り組みも可能でしょう。より認知度を広め、地域住民の相談の機会や、ボランティア、人材採用への展開につながる可能性を引き寄せることが期待されます。現在、子どもたちの目に映る景色に将来に残る何かを是非、描いていかれることを期待します。

４．【アフターコロナの体制作り】
アフターコロナ（新型コロナウイルス感染症が流行した後の社会の在り方を問う文脈での表現）については、新型コロナウイルス禍は不可逆的な変化をもたらし、感染症の存在を前提とした生活を今後も継続していかなくてはならないことが考えられます。園生活、行事、プログラム等、再構築するには、初めにアプローチした以上に手間がかかることが考えられます。園でも現状を踏まえた再アプローチを考え、新たな構築作りに取り組まれ、新しいプログラム等を策定し、体制の活性を図っていかれることを期待いたします。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

施設名：社会福祉法人ル・プリ　ぽらいと・えき

＜評価（自己評価等）に取り組んだ感想＞

年末のお忙しい中 実施していただき、ありがとうございました。
私共の中ではまだまだと感じる部分も多かったのですが、調査者の方の後押しもあり良い評価をいただくことができました。
これを自信にし、さらに研鑽に努めていきます。

＜評価後取り組んだ事として＞

１．2023年度の方針を全体周知し、同じ目標に向かって取り組んでいきます。
コロナについても規制緩和に向かっており、行事の活発化・外部との交流も再開するよう、年間計画に組み込んでいます。

⑧第三者評価結果
　別紙２のとおり